

採用難の時代、新卒学生に
選ばれている事業所はどこが違う？

今、就活生に評判の 人気事業所の採用戦略とは

社会福祉法人
煌徳会
とどろき一輪荘

特別養護老人ホーム
(80人)、ショートス
テイ(20人)のほか、
敷地内に障害者施
設と保育所も併設
した複合型施設



千葉市稲毛区轟町5-2-1
TEL: 043-307-8301
URL: <http://www.ichirin.or.jp/>

「採用希望者が集まらない」と嘆く事業所が存在する一方、毎年優秀な学生を採用できる事業所が存在するのも事実。学生に“選ばれる”事業所とは、いったいどんなところで、どんな採用戦略をとっているのか。学生はなぜその事業所を選んだのか。その答えを探るため、近年、学生の間で評判の3つの事業所を訪ねた。

CASE

充実した待遇と研修、学生への 発信力で優秀な新卒者を確保

新人職員は3年かけて
大切に育てあげる

千葉市内を拠点に多種の事業所を展開する社会福祉法人煌徳会。毎年平均6〜7人、昨年は10人の新卒学生を採用。今年4月には5人が入職し、来年の新卒採用もすでに内定済みという。学生に人気の理由は、第一に市内の介護施設のなかでトップクラスという給与などの待遇にある。

「待遇に関しては、理事長の方針です。他業界に比べればまだまだかもしれませんが、よりよい待遇をめざし、常に努力しています」と施設長の平野幸一さんは語る。もちろん、待遇だけではよい学生を集める決め手にはならない。事実、煌徳会で働く若手職員に入職した理由を聞くと、別の答えが返ってきた。「見学したときの雰囲気。入居者に対するケアの仕方や職員同士の雰囲気、なんだ

かあったかみを感じました」「入職2年目・女性）、「ほかに内定していたのですが、煌徳会はさまざま現場で活躍できる可能性がある」と知り、こちらに就職しました。1年目はケアワーカーとして学び、社会福祉士の資格も取ったので、2年目からは生活支援コーディネーターとして働いています（入職3年目・女性）

そんな「職場としての魅力」の源は、人づくりにあるようだ。若手の指導役でもある入職8年目のケアワーカー長・大熊宏紀さんは、新人育成についてこう語る。

「入職3年目までの職員には、月1回のフォローアップ研修を行っています。自分自身を振り返ってみても、一人前のケアワーカーになるまで3年かかる。特に「介護の現実」を知る1年目は、相談できる先輩や同期の存在が大きい。この時期を仲間と一緒に乗り越えた経験は、プロとしての自覚や自信

入職1年目の声



ふかな はるか
深名 晴香さん

ケアワーカー
(ショートステイ担当)
2019年4月入職
4年制大学福祉系学部卒

先輩たちが温かく見守って くれるので、安心して働けます

煌徳会のことはゼミの先生に聞いて知りました。調べてみたら、施設もきれいで待遇もいい。見学すると、明るくて温かな雰囲気、OGも楽しそうに働いていたので「私もここで働きたい」と思いました。

入職して半年ですが、今は作業をこなすのに精一杯。特におむつ交換が苦手、手早くきれいにできず、落ち込んだりもします。そんなとき先輩がいつもアドバイスをくれるのは本当にありがたいです。

就職を機に1人暮らしを始めました。自分が稼いだお金で生活費をやりくりするのはもちろん初めて。大変だけれど「私、社会人になったんだな」と実感でき、すごくうれしいです。就職先を決めるとき、親や先生が「お給料のことは大事だよ」といつてくれた意味もよくわかりました。

今の目標は2つ。まずおむつ交換などのスキルを上げ、入居者の方と話す時間を取れるようになること。もう1つは不規則な勤務だからこそ、自分なりに生活リズムを整えられるようになることです。



①新人職員たちがSNSに投稿した記事。飲み会や施設のイベントなど、楽しそうな日常がうかがえる ②施設内には、地域の人も気軽に利用できるおしゃれなカフェ「and all Cafe」も ③取材中、廊下で立ち話していたスタッフもこの笑顔。確かに、明るく楽しそうな職場だ

若手職員が職場の日常をSNSで発信

もう1つ、煌徳会の戦略で注目のべきは、外部への発信力だ。施設

にもつながります。だからこそ3年かけて大切に育てたいのです」

フォロアアップ研修はほかの施設に配属された職員と合同で実施。自然と職員同士の親睦も深まる。

「みんな仕事に対するモチベーションも高いですし、若手同士の飲み会やイベントも盛んで、うまく機能していると思います。職員の間関係が円滑だと、施設全体のムードも明るくなります」

設長の平野さんは、業界内外の勉強会などに足を運び、情報収集や人脈づくりを欠かさない。

「介護福祉系学部のある学校関係者や先生方に当法人を知ってもらおう努力をしています。実際、学校関係者が、当法人の考え方や雰囲気合いに合うような就活生に『こんな事業所もあるから、見学してみたら？』と声をかけ、紹介してくれるケースも多いのです」

また、若手職員たちで組織した「SNS委員会」が、職場の日常を外部に発信しているのもポイント。

「若い人たちにとってSNSは重要な情報源ですし、雰囲気を伝えるには適したメディア。新人たちが動画や写真つきのコメントを投稿しています。世代特有のセンスもあると思うので、管理職はあれこれ口を出さず、運営は若手に任せています」

単に「条件がいいから」だけではなく、「ここで働きたい」と思ってくれる学生が応募してくる……。煌徳会がそんな事業所でいられるのは、こうした取り組みが学生の心に響くからに違いない。